

各感染症対策主管課長
各医師会長 殿
定点観測医療機関長

福岡県医師会
会長 松田 峻一 良

福岡県結核・感染症発生動向調査解析委員会 週報 平成26年—第1週 (H25.12.30~H26.1.5)

※ 福岡県医師会ホームページ <http://www.fukuoka.med.or.jp> の感染症情報欄にも掲載されていますのでご参照下さい。

病名	報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	644	113%	福岡335、北九州135	3.25	1.90
RSウイルス感染症	81	52%	福岡34、北九州25	0.68	1.30
咽頭結膜熱	32	34%	福岡14、北九州10	0.27	0.80
A群溶レン菌咽頭炎	108	35%	福岡57、北九州30	0.90	2.38
感染性胃腸炎	382	34%	福岡134、筑後93	3.18	18.07
水痘	208	70%	福岡91、筑後36	1.73	2.00
手足口病	39	37%	福岡15、筑豊9	0.33	0.36
伝染性紅斑	0	-1		0.00	0.10
突発性発しん	27	35%	福岡15、北九州5	0.23	0.47
百日咳	0	-1		0.00	0.01
風しん	0	±0		0.00	
ヘルパンギーナ	2	-9	筑豊1、筑後1	0.02	0.03
麻しん	0	±0		0.00	
流行性耳下腺炎	72	76%	福岡25、北九州25	0.60	0.29
川崎病 (MCLS)	8	-2	北九州7、筑豊1	0.07	
マイコプラズマ肺炎	8	+2	筑後6、福岡2	0.07	0.33
クラミジア肺炎	0	-1		0.00	0.03
細菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.01
無菌性髄膜炎	1	-1	北九州1	0.01	0.04
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	0	±0		0.00	0.01
流行性角結膜炎	6	-2	北九州2、筑後4	0.23	0.71
性器クラミジア感染症	11	-11	福岡6、筑豊2	0.30	
性器ヘルペス	5	-1	筑後2、北九州2	0.14	
尖圭コンジローマ	0	-4		0.00	
淋菌感染症	2	-8	福岡2	0.05	
梅毒	0	±0		0.00	

全国情報より平成25年52週分です。全国情報ではマイコプラズマ肺炎157、クラミジア肺炎14例、平成25年第52週までの累積数は、急性灰白髄炎1、結核26471(県内1145)、コレラ4、細菌性赤痢142(県内5)、腸管出血性大腸菌感染症4033(今週17、県内270)、腸チフス66(県内3)、パラチフス49、E型肝炎126、A型肝炎127、オウム病8、SFTS48、チクングニア熱13、つつか虫病339、デング熱249(県内12)、日本紅斑熱175、日本脳炎9(県内0)、マラリア48(県内3)、レジオネラ症1111、アメーバ赤痢1041、ウイルス性肝炎284(県内11)、急性脳炎358(県内10)、クロイツフェルト・ヤコブ病205、劇症型溶レン菌感染症207(県内6)、後天性免疫不全症候群1550(県内61)、髄膜炎細菌性髄膜炎2、侵襲性インフルエンザ菌感染症106(県内7)、侵襲性髄膜炎菌感染症23、侵襲性肺炎球菌感染症970(県内53)、先天性風しん症候群31、梅毒1220(県内46)、風しん14357(今週13、県内305)、麻しん232(今週6、県内3)例。1類感染症の報告はない。

◎ 平成26年第1週分の週報です。旧年中と同様に今年もご協力よろしくお願ひいたします。本年も3月15日(土曜日)に研修会を開催します。国立感染症研究所 ウイルス第1部 部長の西條政幸先生に「日本における重症熱性血小板減少症候群に関する臨床・疫学的知見」の演題でご講演をいただく予定です。詳細につきましては、後日あらためてご連絡いたしますので多数のご参加をお願いします。

▽ 今週(1週:12/30-1/5)は年末年始を含むため前週比ではほとんどの疾患は減少しているが、インフルエンザは増加し、インフルエンザ流行が拡大が示唆されます。感染性胃腸炎ではノロウイルスの報告が続きます。風しんは全国報告で少数ですが発生が続き先天性風しん症候群はH25年31人で、ワクチンを勧めて下さい。

※ インフルエンザ:10週前より2→31→4→7→7→58→134→201→361→568→644と増加し(定点当たり3.25、前週2.87;20歳以上51.2;前週24.3%)、急患センターからの報告が多い、50週から定点当たり1.0を越している。北九州135(前週65)、福岡335(364)、筑豊64(8)、筑後110(131)。キットではA+もB+もあり、B+が多い定点もある。全国第52週は定点当たり1.90(前週1.39)で鹿児島県5.87が最高で1以上は36都道府県(九州沖縄は全県)。検査定点医療機関はウイルス分離用検体提出を考慮してください。

○年齢分布:今週は0-4歳21.3%(昨年26.9%)、5-9歳16.1(34.9)、10-14歳7.8(16.6)、15-19歳3.6(3.2)、20歳代13.2(3.6)、30歳代16.6(6.0)、40歳代10.4(3.8)、50歳以上11.0(5.0);今週分と昨年分の比較

○キット陽性:門司区よつとり小児科2人A+、小倉南区ひらの子どもクリニック7人A+、小倉南区おかざき子どもクリニック1人B+、小倉南区そお小児科1人A+、小倉南区東和病院5人A+、小倉北区田中子どもクリニック1人A+、北九州市立医療センター小児科2人A+、1人B+、北九州市立急患センター66人A+、17人B+、八幡東区橋爪小児科2人A+、北九州市立八幡病院小児科9人A+、4人B+、八幡西区ともなが小児科1人A+、八幡西区二階堂クリニック2人A+、若松区こむら小児科1人A+、若松区あまもと小児科1人A+、若松区松島医院1人A+、1人B+、水巻町つだ小児科1人A+、行橋市高尾医院3人A+、吉富町東病院2人A+、1人B+、東区もりやす小児科2人A+(母子;ワクチン2回1人、1回1人)、東区あおぞクリニック2人A+、博多区中尾小児科1人B+、博多区高岸小児科2人B+、中央区まつざき小児科1人A+、南区やなひ小児科1人A+、1人B+、南区長住医院1人A+、城南区しんどう小児科2人A+(ワクチン1回1人)、2人B+、城南区井上四郎小児科1人A+、城南区内田子どもクリニック4人A+、2人B+、城南区英内科1人B+、早良区松本小児科2人B+、早良区岡田子どもクリニック5人A+、早良区まいこ小児科3人A+、福岡市急患センター208人、西区下村小児科6人A+(ワクチン2回1人)、3人B+(ワクチン2回1人)、西区高崎小児科4人A+、大野城市松田小児科2人A+、1人B+、大野城市井本内科小児科2人A+、2人B+、春日市横山小児科2人A+、9人B+、春日市おの子どもクリニック1人A+、2人B+(ワクチン2回1人、1回1人)、春日市瀬口病院2人A+、太宰府市丸山病院7人A+、1人B+、筑紫野市彩病院1人B+(ワクチン済)、那珂川町いっお小児科3人B+、糸島市やました小児科4人A+(ワクチン2回1人)、2人B+、糸島市田中みのる内科2人A+、粕屋町森小児科2人A+、2人B+、志免町社保仲原病院5人A+、古賀市矢野小児科5人A+、古賀市いっなだクリニック1人A+、福岡市あいた医院3人A+、福岡市まつなが小児科4人A+、宗像市一木子どもクリニック1人A+、4人B+、直方市大庭小児科1人A+、直方市あざかみ子どもクリニック3人A+、直方市栗原クリニック5人A+、宮若市尾上小児科2人A+、田川市たなかのぶお小児科4人A+、飯塚市飯塚病院27人A+、6人B+、飯塚市永山小児科1人A+、飯塚市子どもクリニックもりた1人A+(千葉より帰省)、飯塚市梶原内科2人A+、久留米市原田医院1人A+、久留米市かとう小児科1人A+、久留米市聖マリア病院4人A+、5人B+、久留米市安本病院15人A+、久留米市大善寺医院1人A+、大牟田市こが小児科1人B+、大牟田市やまかわクリニック11人A+、1人B+、大牟田市立病院小児科2人A+、八女市いしもと小児科2人A+(兄弟)、八女市富田医院9人A+、筑後市川上小児科1人A+、朝倉市きたの小児科2人A+、小郡市きのした小児科3人B+、大川市酒井医院2人A+、4人B+、柳川市津末医院1人A+、柳川市川口内科3人A+(ワクチン済1人)、みやま市入江医院2人A+、1人B+、みやま市ヨコクラ病院6人A+、4人B+、うきは市とよた小児科13人B+(ワクチン済10人)。

※ RSウイルス感染症:5週前より110→114→105→133→157→81(4歳以上1人)。北九州25(前週36)、福岡34(86)、筑豊12(11)、筑後10(24)。北九州市立八幡病院小児科の40生日-3歳18人、行橋市おが子どもクリニックの1歳2人、城南区しんどう小児科の0、1、1歳、西区木下小児科の4-7か月4人、春日市横山小児科の6か月、福岡市まつなが小児科の2、5、7か月、直方市あざかみ子どもクリニックの6、11か月、2

歳(全て気管支炎)、久留米市かとう小児科の8か月、1歳、八女市富田医院の1か月。

- ※ 咽頭扁桃炎:5週前から89→99→89→102→94→82。北九州10(前週21)、福岡14(52)、筑豊3(1)、筑後50(20)。キット陽性:行橋市ゆげ子どもクリニックの1、3歳(別記咽頭炎1、2歳)、城南区しんどう小児科の0、4、5歳、城南区内田こどもクリニックの2歳、直方市あざかみこどもクリニックの9か月。
- ※ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎:5週前から373→403→492→577→812→108。北九州30(前週44)、福岡57(237)、筑豊10(6)、筑後11(25)。発疹合併:門司区まっとり小児科の3歳男、城南区しんどう小児科の3歳女、城南区井上四郎小児科の9歳男。
- ※ 感染性胃腸炎:5週前から1600→1714→1630→1597→1120→382(3歳以下45.8%)。北九州90(前週317)、福岡134(466)、筑豊65(50)、筑後93(287)。北九州市立八幡病院小児科の1歳女に胃腸炎関連痙攣合併、須恵町水戸病院小児科の6、12、15歳女(妹でカキ喫食後(父も同症状))。
 - ・カンピロバクター:若松区こむら小児科の7歳男(大腸菌O25も)、小郡市きのした小児科の2歳男。
 - ・大腸菌:飯塚市こどもクリニックもりたの2歳女にO25。
 - ・ノロウイルス:北九州市立八幡病院小児科の11か月女、1歳男、東区なみり小児科7か月男、1歳男、福津市まつなが小児科の7か月女、11か月男、2歳女。
- ※ 水痘:5週前から320→312→270→374→298→208(15歳以上2人)。北九州35(前週112)、福岡91(119)、筑豊46(23)、筑後36(44)。ワクチン済例:城南区内田こどもクリニックの3歳女(接種時期等不明;軽症)、西区下村小児科の3歳男(H23.11/25;VZ072;軽症)、7歳女(H19.9/14;ロット不明;軽症)、筑紫野市西尾小児科の2歳男(H25.4/3;VZ086;軽症)。
- ※ 手足口病:5週前から184→168→154→141→106→39(15歳以上1人)。北九州8(前週16)、福岡15(51)、筑豊9(18)、筑後7(21)。
- ※ 伝染性紅斑:5週前から4→4→1→5→1→0。北九州0(前週0)、福岡0(1)、筑豊0(0)、筑後0(0)。
- ※ 百日咳:5週前から0→2→4→3→1→0(15歳以上0人)。
- ※ 風しん:10週前から0→0→0→0→0→0→0→0→0→0。全数報告にも今週は県内からの報告はない。
- ※ ヘルパンギーナ:5週前から6→11→11→8→11→2。北九州0(前週7)、福岡0(2)、筑豊1(0)、筑後1(2)。
- ※ 麻しん:10週前から0→0→0→0→0→0→0→0→0→0。全数報告にも今週は県内からの報告はない。
- ※ 流行性耳下腺炎:5週前から134→115→98→126→95→72(15歳以上2人)。北九州24(前週52)、福岡25(36)、筑豊21(5)、筑後2(2)。ワクチン済例:筑紫野市みぞぐち小児科の2歳男(1歳時;武田G403;軽症)。
- ※ マイコプラズマ肺炎:5週前から12→10→10→18→6→8(15歳以上0人)。久留米市むた小児科の6歳男(PA:1280;聖マリア病院へ)。
- ※ 無菌性髄膜炎:5週前から0→1→1→2→2→1。北九州1(前週1)、福岡0(0)、筑豊0(0)、筑後0(1)。北九州市立八幡病院小児科の2歳女(ムンプスに合併)。
- ※ 流行性角結膜炎:5週前から19→12→27→17→8→6。キット陽性:八幡西区眼科向野医院の19歳男、52歳男。
- ※ その他の疾患:アデノ咽頭扁桃炎:北九州市立八幡病院小児科の3か月-8歳7人、東区なみり小児科の4、11歳、中央区まつぎき小児科の5、8歳、城南区井上四郎小児科の9か月、早良区松本小児科の1歳2人、早良区中野こどもクリニックの3歳、久留米市むた小児科の6歳、大牟田市こが小児科の7か月(キット陽性)。ヘルペス歯肉口内炎:小郡市きのした小児科の1、2歳。川崎病:直方市あざかみこどもクリニックの2歳女(厚生年金病院へ)。帯状疱疹:八女市富田医院の8歳男。
- ※ STDで他の疾患:非淋菌性非クラミジア性尿道炎:八幡西区林皮膚科泌尿器科の30歳男、行橋市行橋クリニックの39歳男2人。
- △ 基幹定点:中央区九州医療センターの52歳男と67歳女に細菌性髄膜炎(共にS. epidermidis)、飯塚市飯塚病院の前週分の37歳男と45歳女に無菌性髄膜炎。

☆ 国内・国外情報:感染症疫学センターホームページ等より

- ・先天性風しん症候群(全数):今週1人(52週:累計H25年31人;24年4人と多い;23年1人;22年0人)。
- ・麻しん(全数):今週6人(52週:累計H25年232人;24年285人;23年434人;22年457人;21年741人)。
- ・風しん(全数):今週13人(52週:累計H25年14357人;24年2391人;23年369人;22年89人;21年147人)。
- ・鳥インフルエンザ(H7N9):12/17:10月以降新たに10人あり、中国(台湾1人を含む)で患者143人、死亡47人。

- ・鳥インフルエンザ(H10N8) : 12/20 : 中国江西省で73歳女性の患者発生(重症肺炎 ; 死亡)。
- ・MERS(マーズ) コロナウイルス : 1/6 ; 患者177(前回166)人、死亡74(前回71)人(ヨルダン、カタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、フランス、ドイツ、イタリア、チュニジア、英国、オマーン、クウェート)。

◎ 北九州市八幡西区しゅう眼科医院の周正喜、大野城市のうえこどもクリニックの井上和彦、糸島市田中醫院の田中幹久、以上の先生が平成26年から参加されます。従来からの先生方共々よろしくお願いたします。

- ・麻しん・風しんは平成20年1月1日より全数把握となりましたが、福岡県結核・感染症発生動向調査事業では、県内の発生状況を迅速に把握するために、小児科定点の先生方には平成26年も引き続き、保健所への全数報告とは別に、本会へ毎週定点報告をいただくこととしています。なお、麻しんは平成25年4月の感染症法改正により、臨床診断後に原則として検査診断が求められていますので、管轄の保健所に相談ください。
- ・基幹定点においては、平成25年4月より侵襲性インフルエンザ菌感染症・侵襲性細菌性肺炎球菌感染症が全数把握対象疾病で追加されたため、これら以外の細菌性細菌性肺炎球菌感染症が報告対象となりました。また、同年10月よりロタウイルスによる感染性胃腸炎が定点報告対象となりましたので報告をお願いします。
- ・感染症発生動向調査の質を確保するために、「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」(本会の事業資料集にも掲載しています)をご参照くださいますようお願いいたします。
- ・週報は定点の先生方の情報を活用していますので、県民・会員に有用な情報をお待ちしています。報告は原則的に翌週の月曜日までをお願いします(※月曜日が祭日の場合は火曜日の午後7時まで)。なお、スペースに限りがあり、迅速診断キット等の普及で全てに対応できず、一部情報は省略しております。情報量を確保するため略号や短縮して記載しています。通信欄に患者情報等を記入される場合は、年齢群ではなく実年齢および性別を記載してください。ワクチン済例の報告は別途報告書がありますのでご使用下さい。
- ・連絡責任者、管理者、FAX 番号等の変更時は、福岡県医師会事務局(092-431-4564)にご連絡下さい。

青木 知信